

## シルバーパワーに感謝

全国一斉活動の表示  
となるのぼり旗



老人クラブ社会奉仕活動は9月20日に全国一斉に行われます。八方原老人会では、当日市道の除草清掃を実施されました。今回は29名の元気高齢者が活動に参加されました。

市道ですが、農地に隣接していることから「農地離接道路」という扱いになりますので、多方面

的機能支払制度の日当支払対象事業の「共同作業」としても行って頂いていきます。

全長では2000メートル近い道路の清掃ですから、簡単ではありません。大先輩方の活躍に感謝です。

### 水路の管理は除草から

水路堤体の除草管理は、多面的機能支払制度の重要な項目です。このため当会では5月、7月、9月の第一日曜日を作業日に指定して、土地所有者の方々の参加をお願いしています。ただそれぞれのご都合が合わないこ



まだまだ暑い9月の半ば、除草作業に取り組む

とも少なくないので、それぞれの時間で作業をして頂いています。

前号で紹介しました洪水対策についての市の担当課との話し合いについてお知らせします。

会議には自治会、農事組合法人八方原、同水利担当者、上組水利組合、関係する1班住民代表と事業者代表が出席、それぞれの意見を述べました。

市からは九田川の榎野川本流への排水口付近に、一定水位を保てるようにバイパス水路を設け、八方原農地の西側排水路に直接ではありませんが、徐々に流すという対策案が示されました。上流側から一気に流す今の緊急策とは大きく異なる方法です。



県道との交差点まで手分けをされて、作業されました(9月20日)

山口市下水道課から

## 新たな防災対策を提案

八方原地区の浸水対策 <資料②>

バイパス管設置(案)

バイパス管の高低配地について (目安)

企業の敷地高さ 6.1m  
市道の最低高さ 5.1m

管底高さの目安

R3.8.14 午後4時の状況

パイプ架設設置(案)概要

- 管の径: 直径300mm 延長約20m
- 管の設置高さ(管底高)は、市道の最低高と企業の敷地高との間を目標として設置する。(ただし、詳細は要検討)
- 管の放流先には、流速を抑え、流下方向等を調整することも目的とした柵を設ける。(柵作りに影響がないように計画)
- 当該(案)は、滞留した雨水のすわみ水を直接排水へ放流することで、上地区における市道浸水や企業敷地の浸水を防ぐことができ、また、すわみ水の放流であることから徐々に放流させることができるため、下地区浸水への影響を最小限に抑えることができる。
- 当該(案)で「柵」を設置する場合は、柵の設置位置を「柵」の下流側に設置する必要がある。

当日の会議で示された計画、水位の上昇に応じて放流

# 秋の収穫 稲刈りがスタート



水路壁面をにらみながら刈り残しの無いように

9月9日から、早生品種の稲刈りが始まりました。圃場の南側約6ヘクタールを二日間で刈り取りました。稲刈りは、稲も地面も乾燥していな

## 「現代の名工」高山昭俊さん逝く

当地区で30年以上事業を行ってこ



葬儀の受付に置かれていた卓越技能賞の盾（8月26日）

れた株式会社高山造庭園の代表高山昭俊氏が令和3年8月逝去されました。自治会にとっても頼れる存在でしたが、病魔には勝てず、74歳の生涯を終えられました。業界への貢献に黄綬褒章、また現代の名工とも呼ばれる卓越技能賞など輝かしい実績を残されました。

## みんなの集合場所に時計塔が設置

いとできません。常に天候とのタイミングを計りながら作業を行うことになります。稲刈りでは最初に外周を刈り取りません。大型のコンバインも右側ぎりぎりです。大型のコンバインも右側ぎりぎりで刈り取るようにできています。そこで最初の刈り取りは外側の障害物に接

八方原子子ども会では、学校に通う児童のために時計を設置することを、今年の計画に上げておられました。児童が集合して出発するのに、彼らは時計を持たないので、家を出るときは時刻しか頼るものがないというのが今まででした。出発の時刻がまちまちではないので、基準になる時計が必要ではないかということから、時計

触しないように、慎重に進みます。地面の状況で、大きなコンバインも微妙に進行方向が左右されますので、それを一本レバー（操縦桿）で修正しながらゆっくりと進めます。外周が終われば、次はほぼ全速力で刈り取りです。

の設置が決まったのです。場所について関係機関とも協議した結果、集合場所の水路の脇に決定しました。8月25日工事が行われ、頑丈な白いポールを固定し、そこに時計が取り付けられました。



新学期のスタートは新しい時計塔から

## 1100年前に思いを馳せる時

八方原神社（岡田の天神様）の由来



手作り感満載の看板（東津上）

は諸説あります。中でも菅原道真が大宰府に下る際に、この付近に留まったという言い伝えもあり、その縁でここに天神様が祀られています。東津地区の個人の畑に自作の看板があるのを存じでしょうか。そこには嵐に襲われた道真一行を「龍」が助けて、榎野川の竜宮淵に避難させたという内容が書かれています。史実では防府の中の関を出た一行は嵐に襲われ、九州に流れ着いたということも残っています。その前に、八方原地区付近に一時避難をしたのかもしれないね。